

2019年度「グローバル共生研究Ⅷ 農からの社会再生」(JA 共済寄附講座)

聖心女子大学 越後妻有スタディツアー 実施報告



2019年6月
沼田真一・清水健太

概要：

講義「グローバル共生研究Ⅷ 農からの社会再生」(JA 共済寄附講座：担当教員 沼田真一)においてゲスト講師を務める清水健太(早稲田大学大学院社会科学研究科博士後期課程)のフィールドワークに合流し、農村における暮らしに直接触れることで、その魅力や課題、未来のあり方などを考える機会とした。今回は、「農と生活とアート」をテーマとして、農を中心とした自然の風景や芸術などとの関係を中心の学びとした。

実施日：

2019年6月22日-23日(一泊二日)

参加者：

20名(聖心女子大学学生13名、早稲田大学学生3名、教員4名<大橋正明、落合基継、沼田真一、清水健太>)

訪問先：

越後まつだい里山食堂(昼食)(1日目)

昼食として、地元産の食材を使った郷土料理や創作料理のビュッフェをいただいた。「食」という側面から越後妻有地域について理解を深める機会となった。



食堂の空間もアート作品となっており、窓越しに棚田が見える



地域の食に関する冊子も配布されている

鉢集落 / 鉢&田島征三 絵本と木の実の美術館(1日目)

鉢(はち)集落では、十日町市指定文化財「鉢の石仏」にて、鉢集落の尾身浩氏(鉢未来フォーラム21代表)・尾身悠太郎氏(Uターン経験者)から鉢集落や鉢の石仏について解説をいただいた。鉢集落については、過疎化や高齢化が進んでいること、その中で地域を盛り上げる試みを続けており、そのような活動の一つとして大地の芸術祭に第一回から参加し現在に至ることをお話いただいた。「鉢の石仏」については、200年以上の歴史があることや、「鉢の石仏」を構成する十三仏や百庚申、照利庵等について解説していただいた。



鉢集落について説明する尾身浩氏(左)と尾身悠太郎氏(右)



鉢の石仏(十三仏前)にて

その後バスにて絵本と木の実の美術館に移動した。絵本と木の実の美術館の天野季子氏（絵本と木の実の美術館前館長、Iターン経験者）より解説をいただきながら館内を見学した。



説明をする天野季子氏



館内の様子

館内見学ののち、尾身両氏と天野氏によるクロストークを実施した。絵本と木の実の美術館が小学校であった時の様子、天野氏が鉢集落と出会い移住に至る経緯、絵本と木の実の美術館への地域の関わり、集落や美術館の今後の展望などについてお話を伺った。各氏からは苦労や悩みといった裏側の話も多く聞かれ、農村の現代におけるあり方や、現代アートと農の関係について体験的に理解できる有意義な機会となった。



クロストークの様子



ゲストの方々を囲んで記念撮影

松学ドミトリイ(1日目・宿泊)

宿舎では夕食後に1日目の振り返りを実施した。振り返り後の交流会には、十日町市役所松代支所長の樋口彰氏、松学ドミトリイを運営する(有)松代早稲田協力会代表取締役の木戸一之氏と奥様の幸子氏(旧松代町出身)にもご参加いただき、親睦を深める機会となった。



振り返りの様子

星峠の棚田(2日目)

十日町市役所松代支所長樋口彰氏にご説明をいただきながら、棚田を鑑賞した。樋口氏からは、NHK大河ドラマのオープニング映像のロケ地として使われるなど内外からの評価が非常に高い場所であることを伺ったほか、集落住民が棚田を訪れる人のために展望台やトイレを整備するなどの取り組みをしながら環境の保全につとめていること、ため池を設けて雪解け水を田んぼの用水に利用しており、それが美味しい米が育つ一因であることなど、詳しいご説明をいただいた。



樋口氏の説明を聞く参加学生



棚田を背景に記念撮影

竹所集落(2日目)

竹所集落では高度経済成長期以降高齢化が進んでいたが、カール・ベンクス氏の移住やその後の古民家再生の取り組みなどにより移住者が増加、高齢化集落を脱し、18年ぶりに子どもが誕生するといったことも起こっている。そのため、「奇跡の集落」と言われている。

竹所集落には、ドイツ人建築デザイナーのカール・ベンクス氏が手がけた再生古民家が数多く立地する。そのうち、家主の方のご好意でイエローハウスを見学させていただいたほか、地域おこし協力隊の小陳泰平氏より単身者用お試し移住シェアハウスについてご紹介をいただいた。小陳氏からは、地域おこし協力隊の活動や松代でのご自身の暮らしなどについてもお話を伺った。



イエローハウスにて、家主の方を囲んで



説明する小陳泰平氏

まつだい雪国農耕文化村センター(農舞台)/松代ステージ/アート作品群(2日目)

まつだい農舞台にほど近い城山に点在するアート作品群を見学した。この周辺には2000年の第1回大地の芸術祭以来の作品が数多く存在する。樋口氏からは、そのような作品の一つでは、作品の舞台となった棚田の持ち主の男性が作品づくりに関わる中で現代アートや自身の棚田についての認識を変えていった、そのようなエピソードもご紹介いただいた。

松代ステージに移動して解説をいただき、アーティスト・草間彌生の作品と一緒に記念撮影をした。



松代カールベンクスハウス&レストラン「澁い」(2日目)

松代カールベンクスハウスは、1階がレストラン、2階がベンクス氏の事務所となっている。ベンクス氏ご本人に館内をご案内いただいた。日本の古民家の良さを信じ、50軒以上の建物を蘇らせてきたベンクス氏の言葉とともに空間を体験することで、古民家再生が現代の農村においていかなる価値や可能性をもちうるのかを理解できる機会となった。館内見学の際に1階のレストラン「澁い」にて昼食をとった。



説明をするベンクス氏



松代カールベンクスハウス前にて記念撮影

ほくほく通り / まつだいふるさと会館(2日目)

松代カールベンクスハウスからまつだいふるさと会館までを徒歩で移動し、その道中である「ほくほく通り」沿いにある諸施設を見学した。樋口氏に解説をいただきながら、どぶろく製造の特区第一号であるどぶろく蔵や、住宅に見られる雪国ならではの特徴などについて解説をいただいた。

まつだいふるさと会館では施設の概要をご説明いただいたのち、各々お土産品などを見学・購入した。一日ご案内をいただいた樋口氏、宿泊でお世話になった木戸夫妻にお見送りいただきながら、現地を後にした。



ほくほく通りを樋口氏にご案内いただく



樋口氏・木戸一之氏とともに記念撮影

参加学生の感想 (一部抜粋) :

スタディーツアーに参加して、一番の大きな収穫は直接自分の目で見ることの大切さについてもっと重きをおくべきだと知れたことです。今回のスタディーツアーがなければ、訪れることのなかった可能性が高い、越後妻有という観光地ではない場所に行くことができた、という経験は私にとってその可能性を広げてくれました。地方にあまり行ったことがない私でしたが、鉢集落、松代の方の暖かさに迎え入れていただき、本当に外の地域の人から来た人々を嫌な顔せず迎え入れてくれる方々なのだなと感じさせてくれました。地域の皆さん全体でこの地域を活性化させる！大切にしていきたい。という思いが、話を聞いてとても伝わってきました。過疎化が進む地方でさまざまな取り組みに励み楽しいより苦しいの方が大きいけど、人との繋がり、広がり感謝しているとお話を聞き、地域のためを思って行動する彼らの姿に感動しました。そして、松代の方々は高齢者とは思えないような元気な姿で生き生きとしてとても魅力を感じました。今、東京などの大都市では高齢者の孤独死などが増えているという問題がありますが、その理由に繋がりが少ないからという理由が挙げられるのではないかと考えています。そのため、今回訪れたような地域全体での関わりがもっと増えれば、孤独死を食い止める解決策になるのかもしれないと考えました。高齢者が生き生き生きるのにはどうすれば良いのか？また、若年層が地方に来るようにする、若年層の人口を増やすのにはどのようにしていけばいいのか？さまざまな解決策が考えられているかもしれません。その地域にあった何かがあるのかもしれない。多様な環境、状況だからこそその1つ1つに向き合っていく必要があると感じました。

新潟に初めていき、棚田を初めて見て天候は良くありませんでしたが、とても綺麗で見入ってしまいました。こんなにも自然豊かで山の多いこの日本にはこのような場所がたくさんあるのではないかと考えたので、もっと他の場所にも訪れ現地の野菜を食べたりして、日本の良いところを知っていきたいと思います。

(1年生・女子)

松代を訪れるのは初めてでしたが、私のイメージしていた農村地域とは異なるような地域でした。私は地域おこしや観光事業を始める際、必ず反対派との争い事が起きたり、派閥のようなものがあると思っていましたが、鉢は殆どそのようなことが無かったことに驚きました。しかし、派閥がある地方もあると思うので、機会があればそのような地域を訪れてみたいと感じました。また、松代は大変恵まれている地域だと思いました。住民の理解や様々な側面からのアプローチ(芸術やボランティア方法など)が上手く、こんなにも活発に地元の魅力を発信しているのは松代だけなのではないかと思うほどでした。そして、樋口さんがお話されていた「観光目的ではなく、本当に松代を良いと思ってくれた人だけが魅力を伝え、また訪れてくれれば良い」という言葉が、松代が今賑わっている大きな理由だと感じました。元からある町の魅力をそのまま伝えるためには、このような考えが重要なだと気付かされました。

天野さんや樋口さん、カールベクスさんと貴重な時間を過ごすことができ良かったです。

(1年生・女子)

スタディーツアーで松代の方々の松代への思いをたくさん感じる事ができた。

仮に活動に賛成していなくても反対の声をあげずに見守っていたり、ある時には名字を揃えてしまったり、これらのことは都会では考えられない松代の人々の強い繋がりによるものだと思う。

また、絵本と木の実の美術館では今となっては世界中から注目を集めているが、始める時には様々な困難にぶつかり今の成功している様子からは考えられないほどたくさんの苦労があったことを元館長の方々から聞き、苦労したろうなどは思っていました。がそこまでの大変さはアートから感じる事ができなかったのも、お話を聞く前と後には作品の見方がかなり変わった。

今日本では地方の過疎化や農業の後継ぎが問題になっているが、多くの人に松代のことを知ってもらい都会では経験できない人々の繋がりなどを経験してほしい。

(1年生・女子)

聖心女子大学越後妻有スタディーツアー 実施報告 (2019年6月)

主催：聖心女子大学 共催：早稲田大学社会科学部空間映像研究ゼミナール
企画：沼田真一 ツアーコーディネーター：清水健太